

製本のススメ

Vol. 73

乾燥注意報がでていると思ったら、今度は大雪注意報と節分が過ぎてからの天気もめまぐるしいですね。雪は眺めているに限ります。

今回は**見返し**の話し

見返しを知らない人は少ないでしょうが、見返しの役割は？と聞かれて困った人はいませんか？見返しとは本文の前後(表 2・表 3 の部分)に入れる用紙の事で、基本的には二つ折になっています。

この二つ折のうち 表 2・表 3 へ糊付けされる方を『力紙(又は きき紙)』と呼び、もう片方を『遊び紙』と呼びます。つまり1枚の用紙でありながら、半分ずつ呼び名が違うわけです。**見返し本来の役割は、本文の保護**にあります。直接表紙と本文を貼りあわせると、修理等で表紙を取り替える際に本文が痛んでしまう事を防ぐのが狙いです。また上製本では**本文と表紙を繋ぐ唯一の部品**でもあります。

最近では無線綴が主流なので、針金綴の冊子は少なくなりましたが、ノド側へ見返しを貼りこむ事で、**表紙を開けた際に見えてしまう針金を隠す**役割もありました。また見返しは表紙に次いで**デザイン豊かに表現が出来る場所**でもあります。

では、どのような用紙が見返しに向いているのでしょうか。本の保護という点からみると、まず**薄い用紙は不向き**です。特に上製本では重要な役割ですので、厚い用紙が必要です。おおよそ 0.15~0.20 ミリ程度の厚みは確保したい所ですね。上質レベルで言えば四六版なら 110k~135k 相当でしょう。

また強度も必要ですので、和紙の様に**厚みが有っても破れ易い用紙は不向き**です。さらに、糊を多く使われますので、**湿気に弱い用紙(ミラーコートやしんだん紙など)も不向き**です。

見返しが付くと高級感も生まれますので、並製本についても使い方次第でイメージアップを図れるなど、効果抜群です。



Tea break

時々、おでこなのか、頭なのか境界線がわからない人っていますよね。でも本人には聞きにくい。そこで解剖学上の定義を調べてみました。頭蓋骨の骨格によって顔と頭をわけており、耳の穴から眉毛を通して反対の耳の穴を通る線で分けられているそうです。つまり額は頭として分類されます。これなら、頭とおでこを区別しなくて済みますね。

by (株) 井関製本